

第2期 奈良県食育推進計画案のパブリックコメントおよび回答について

	パブリックコメント(意見概要)	回答(案)
P3 食育に関する課題	食育等に関するアンケート調査の結果に基づき、食育に関する課題を抽出し、食育推進の施策を展開する手法をとることに賛同できない。「食育」に関するアンケート調査からは、食育と食生活の課題について終始し、社会情勢の動向を踏まえたうえで、食育の方向性、食育が果たすべき役割を導き出すことができない。また、アンケート調査では、県民の食生活の実態、食育の認識を把握することとどまり、客観的データを用いて分析することができない。 予防医療の観点から県民の食生活、生活習慣の改善を推進する「食育」の果たすべき役割は重要である。生活習慣病の減少、医療費の抑制、県民の健康増進、地方財政・国家財政の立て直しのために実効性のある「食育」の施策展開を希望する。	ご指摘の通り県民の食生活、生活習慣の改善を推進する「食育」の果たすべき役割は重要である。そこで本県では、県民の「健康づくり」を推進することを第2期計画のテーマとし、その改善に向け適切な健康づくりの行動を起こすことを目標としました。 今回のアンケート調査は、これまで把握できていなかった県民の食育の意識、食生活の実態を明らかにしたもので、それに基づき課題を抽出し、今後5年間の対策を検討しています。
P4、P5 第3章、第4章	p4「3. 基本的な考え方」中の「3つの施策展開の基本的な考え方」とp5「1. 施策展開の3つの方向と施策領域」は両者ともに食育の方針を示しており重複しているため、統一すべきである。施策展開の方向性としては、食をめぐる現状分析をした結果に基づき導き出された課題を解決するための食育の施策であるべきと考える。	「基本的な考え方」は基本目標を達成するための、第2期計画の柱立てを示し、「施策展開の3つの方向と施策領域」は基本目標を達成するための具体的な施策を、3つの分野で整理したものです。
p5 第4章 食育推進の取り組み	ライフステージに応じて進める食育」、「生涯を通じて進める食育」は、世代毎または全世代の区分で分類しているだけで、双方に共通した施策があることから、統一したほうが理解しやすい。	「生涯を通じて進める食育」は幼児から高齢者まですべてのライフステージで取り組みが必要である施策領域であるため、別に設定し取り組みを進めます。
P7 以降 「3. ライフステージ」に応じて進める食育	5分類に細分化された年齢層での目標設定、対策の列挙は理解しづらい。青森県の計画のように、「家庭」、「学校」、「地域」の3つに分類し、「基本的な考え方」、「具体的な取り組み」を紹介したほうが理解しやすい。 目標、指標の設定にあたっては、県民の意識、認識の程度を指標化するのではなく、あくまでも生活習慣や食生活が改善されたことを示す数値を指標化して頂きたい。 例えば、野菜摂取量、朝食欠食率、食育ボランティア比率、食に関する指導計画を策定している学校数、虫歯のない3歳児の割合、学校給食地場産物の使用割合など。	食の課題はライフステージごとに異なり、その対策もライフステージごとに進める必要があります。「家庭」「学校」「職場」などでの具体的な対策については、ライフステージごとの対策の中で示しています。 県民の適切な健康づくりの行動により、ご指摘の指標の改善が期待できるものと考えています。
P7 乳幼児期の食育	妊産婦の方への食の安全に関する情報と相談の記載があればと考えます 環境整備の項に、その項目はあるのですが、子どもをもつ親の学習の場の設定、対象者別に実際実施される必要があるかと思えます	24年度に現状値の把握および目標値の設定を行います。